

# 旧神戸移住センター再整備基本計画

2008 年 2 月  
神 戸 市

## ※ご覧になるうえでの注意（重要）

- ① 本資料は、2008 年 2 月に策定された“旧神戸移住センター再整備基本計画”のうち、「Ⅷ 事業スケジュール」、「参考資料：検討委員会委員名簿・検討経過」及び図面等のページを省いたものです。過去の経緯と、出発点のコンセプトを確認する意味でご参照ください。
- ② 本書の「各階機能構成表」に記載された部屋の名称は、計画策定時点でのものであり、現在では変更されております。正式名称は、指定管理者応募要領等で使用されているものですので、ご注意ください。
- ③ 本書の「Ⅵ 展示計画」も同様に基本計画策定時点のアイデアであり、現状とは異なります。

## I 基本計画の策定にあたって

### 1. 策定にあたって

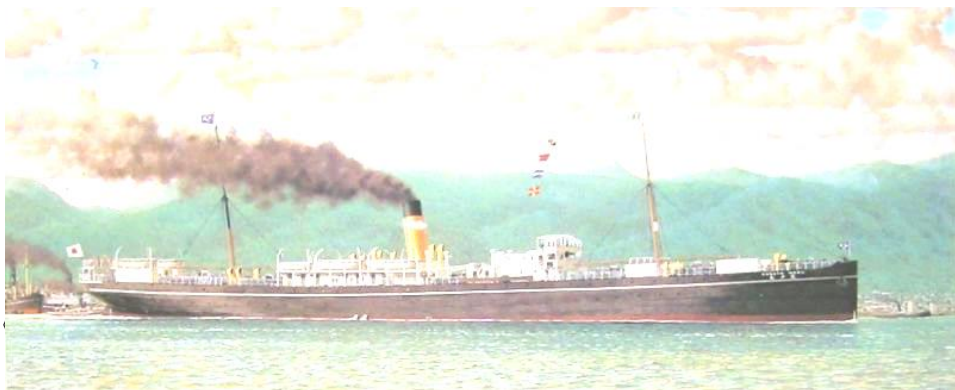
神戸は1868年(慶応3年)に開港し、本年、開港140年を迎える。開港後の神戸は多くの人や物が集まる諸外国への玄関口として発展し、海外との交流が活発に行われてきたが、神戸はまた、中南米諸国を中心とする日本からの海外移住の拠点としても大きな役割を果たしてきた。今からおよそ100年前の1908年(明治41年)4月28日に、最初のブラジル移民船「笠戸丸」が781人の移住者を乗せて神戸港を出港して以来、約25万人の移住者が神戸港から、ブラジルを中心とした中南米諸国へと旅立っていった。

一方、1990年(平成2年)の「出入国管理及び難民認定法」の改正を大きな契機として、近年、日本からの移民の子孫である日系人、特に日系ブラジル人の数が増加しており、多くの日系人が長期にわたって日本に滞在するようになり、日本全体の在住日系人数は約35万人に上っている。

こうした中、ブラジルの日系人団体から、国内で唯一現存する移住関連施設である「旧神戸移住センター」の国による整備・保存を望む声が上がリ、市においてもセンターを常時開館し「移住資料室」を開設するとともに、在住日系人の支援や芸術を通じた国際交流活動に暫定的に活用してきたが、2008(平成20)年のブラジル移住100周年を迎えるに際し、市として同センターの保存・再整備を行うことを決定した。

保存・再整備の検討に際し、ブラジル移住関係はもとより、多文化共生や近代建築など、幅広い分野の専門家の参画を得て、「旧神戸移住センター再整備基本計画検討委員会」を設置した。同委員会での約半年間にわたる議論の結果、旧神戸移住センターは、「海外移住の歴史と意義の継承」「在住外国人支援の推進」「国際芸術交流の推進」を目的とし、「多文化共生」と「地域の活性化」を通じて、神戸のよりよい未来づくりに資する施設として再整備することが望ましい、との報告がまとめられた。

本基本計画は、この検討委員会による報告を踏まえ、旧神戸移住センターの保存・再整備に際しての基本的考え方を示すものとして策定したものである。



## 2. 計画の位置づけ

神戸市では、2010 年を目標年次とする「第 4 次神戸市総合基本計画」の実現をめざし、その中期計画である「新たなビジョン」を 2005 年 6 月に策定した。この「新たなビジョン」と相互に補完・連携を図る部門別計画の一つとして、「神戸市国際化推進大綱」が策定されている。

また、神戸市の文化振興・育成に係る基本理念である「文化創生都市宣言」（2004 年）をふまえ、文化行政の具体的な取組みをまとめた「神戸文化創生都市推進プログラム」（2005 年）が策定されている。

本基本計画は、「神戸市国際化推進大綱」の基本理念や基本目標を達成するための実施計画の一つとして位置づけられるとともに、「神戸文化創生都市推進プログラム」を具体化する実施計画としての性格を有するものである。

## Ⅱ 基本的な考え方

### 1. 背景

- ・海外移住者は文化・生活習慣の異なる環境において多くの苦難を乗り越え、移住先国においてその国の発展に貢献し、海外における日本の評価を高め、わが国の国際化の先駆けとなった。
- ・神戸は、1868 年の開港以来、国内外から多くの人や物が集まる海外との交流拠点となり、現在では 120 を超える国・地域から 4 万数千人の外国人市民が居住している。また、1928 年の「国立海外移民収容所」開設以降、1971 年の閉鎖までの間に約 25 万人の移住者を送り出し、海外移住の一大拠点となった。
- ・1990 年の「出入国管理及び難民認定法」改正をきっかけに、南米系日系人を中心とする、いわゆる「ニューカマー」と呼ばれる人々が増加しているが、こうした人々はコミュニケーション上の問題を始め、生活上様々な困難に直面している。

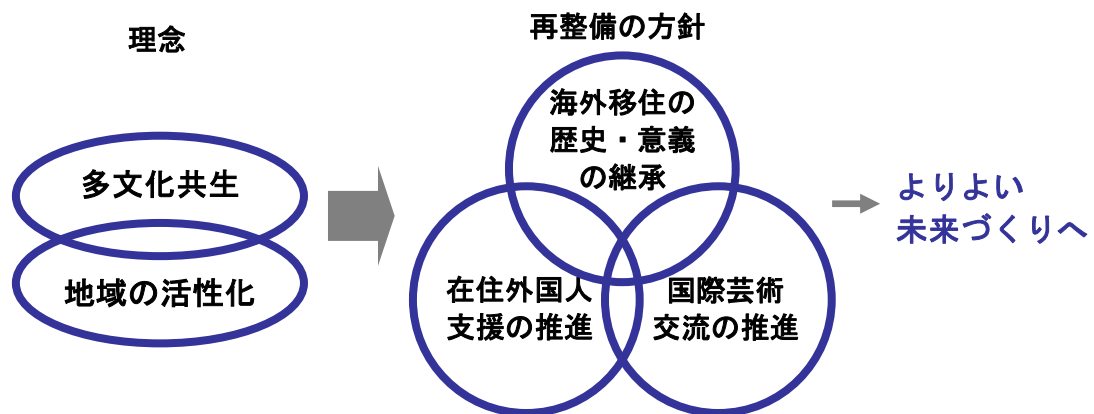
### 2. 理念

旧神戸移住センターの再整備により、海外移住の歴史と意義を広く市民に伝えるとともに、在住外国人との交流事業を通じて、異なる文化を理解・尊重しながら地域でともに暮らす多文化共生のまちづくりの実現をめざす。また同センター及び地域に存在する諸資源を活用し、国際的な広がりを持った芸術交流活動や集客イベントを活発に展開することにより、同センターが新たな観光集客の拠点となり、地域の活性化に貢献するとともに、神戸のよりよい未来づくりに資することを目指す。

### 3. 再整備の方針

- (1)建物が記憶してきた歴史を未来に継承するとともに、移住資料展示等を通じて海外移住の歴史・意義を伝える。
- (2)南米系日系人を中心とする在住外国人支援の拠点として活用する。
- (3)地域と連携した国際芸術交流の拠点として活用する。

#### ■再整備の理念と方針



#### 4. 施設の利用対象者

現在の施設利用者は一部の層に限定されているが、再整備後は、若者や地域の人々が多く利用するよう、また北野異人館や北野工房のまちなどを訪れる観光客の来訪を積極的に推進し、幅広い層の人々が利用できる仕組み、仕掛けづくりを行う。

##### ■利用対象者

広く一般を対象とするが、特に以下の層の利用を重点的に促進する。

- ・次代を担う子どもたち、青少年
- ・南米系日系人を中心とした在住外国人
- ・神戸への観光客

### Ⅲ 機能

#### 1. 機能

3つの目的実現のため、センターは以下の機能を備えるものとする。

##### (1)移住ミュージアム機能

海外移住の歴史・意義を広く一般に伝えるとともに、次代に継承するために必要となる、神戸に関連する海外移住資料の展示・関連情報の発信機能

##### (2)在住外国人支援機能

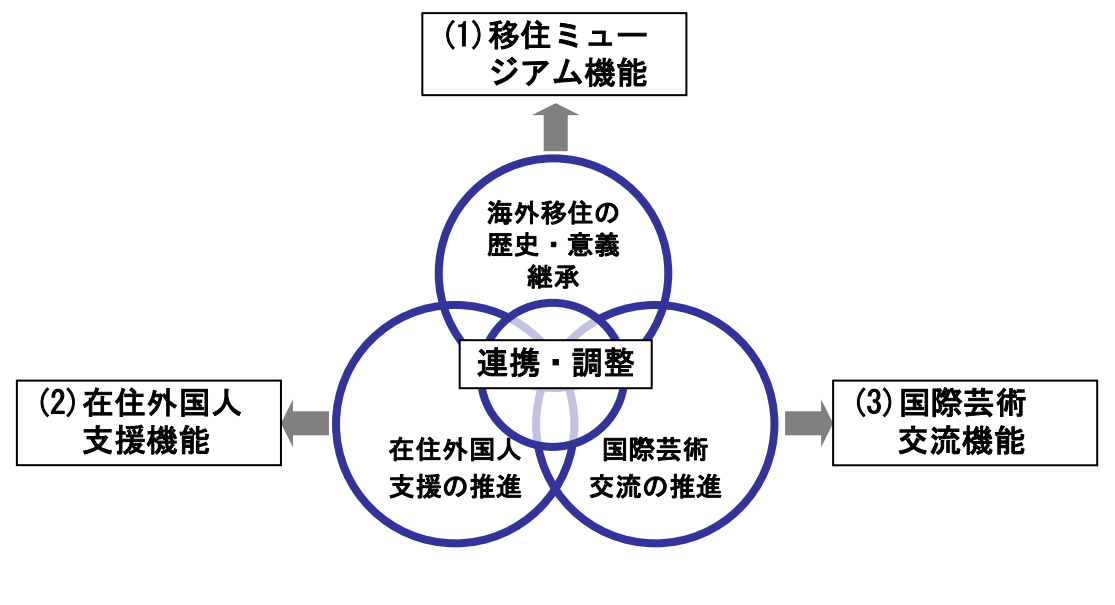
増加する南米系日系人を中心とした在住外国人の支援、市民との相互理解・共生を促進する機能

##### (3)国際芸術交流機能

これまでの施設利用形態をふまえた、地域と連携する芸術交流機能とともに、(1)(2)の機能と連携し、多文化共生、地域活性化を具現化する機能

また、再整備に当たっては、(1)～(3)それぞれの機能の連携・調整をはかり、一体的かつ効果的な活動を実現する。

#### ■施設が担う機能



## Ⅳ 事業計画

### 1. 各機能における活動内容

#### (1) 移住ミュージアム機能

##### 【展示・学習支援活動】

- ・ 神戸にかかわる海外移住の歴史を中心に紹介し、海外移住の意義を広く一般に伝える。
- ・ 増加する南米系日系人のルーツを紹介し、相互理解を深めるきっかけを提供するとともに、特に南米系日系人については移住の歴史を通して自身のルーツを確認し、その歩みを振り返ることができる場とする。
- ・ 旧神戸移住センターの建物自体の歴史を通して、神戸が歩んできた歴史の一端を紹介する。
- ・ 学校・団体などの利用や総合的な学習の時間などにも応えられる展示とする。
- ・ 可変的な展示を多く用いて、情報の更新や追加がしやすいものとする。

##### 【交流・体験活動】

- ・ 市民参加による展示解説や、当時の旧神戸移住センターを知る人々、移住体験を持つ人々による語り部活動を行う。
- ・ 市内在住の南米系日系人の協力を得て行う交流プログラムを開催する。
  - 〔 移住地紹介、現地のくらし紹介、ブラジル音楽のタベ、  
「移民祭」(CBK 主催)を拡大して開催(ミュージアムとの共催による) など 〕
- ・ 移住の歴史をたどる体験プログラムを開催する。
  - ( 旧神戸移住センター見学と神戸港(移民船出発の地)までを歩く など)

#### (2) 在住外国人支援機能

##### 【在住外国人支援活動】

- ・ 南米系日系人を含む在住外国人を対象として、心のよりどころとなる場を用意する。
- ・ 南米系日系人を中心とした在住外国人支援活動を行っている団体に対し事務・活動スペースを提供する。
- ・ 相談受付窓口を設置し、生活上の各種相談に応じる。
- ・ 各種教育プログラムを用意し、南米系日系人を含む在住外国人に対し、その能力開発や日本語習得支援・日本理解促進をはかる。
  - 〔 パソコン教室、日本語教室・母語教室、危機管理講座、  
日本料理教室、茶道・華道教室 など 〕

##### 【交流・体験活動】

- ・ 在住外国人同士の交流の場・機会を提供する。
  - 〔 誕生パーティー会場を提供、バーベキュー大会、 〕



合同ハイキングの開催 など

- ・ 市民と、在住外国人との交流の場・機会を提供する。  
〔 南米系日系人を講師として開催するポルトガル語講座・スペイン語講座、  
遊びのひろば(子どもを対象に開催。日本の遊び・諸外国の遊び体験  
や国際芸術交流機能と連携したアート体験) など 〕
- ・ 多文化共生、異文化理解のための市民参加活動を促す。  
(「フェスタ・ジュニーナ」運営への市民参加のよびかけ など )

### (3) 国際芸術交流機能

#### 【展示・学習支援活動】

- ・ 子ども向け学習プログラムを用意し、芸術に気軽に触れられる場と機会を創出する。  
( 放課後アートスクールの開催、 夏休みアート相談 など )
- ・ さまざまなテーマにもとづく企画展を開催する
- ・ 芸術作品の制作と発表の場を提供し、若手芸術家の育成を図る。
- ・ 公開アトリエ活動を継続実施する。

#### 【交流・体験活動】

- ・ 海外アーティストとのコラボレーションなど、海外との国際芸術交流活動を行う。
- ・ 芸術を軸とした交流活動を行う。  
〔 企画展と連動したワークショップ開催、  
交流イベントの開催:アート・フリーマーケット、  
アーティストになろう(一日アート体験) など 〕
- ・ 市民に芸術交流体験の場と機会を提供する  
( アート創作講座の実施、 作品発表会 など )

## 2. 広報・集客活動

特に施設全体にかかる広報・集客活動については、(1)～(3)の機能を連携させ、円滑かつ効果的な実施を図る。

#### 【広報活動】

- ・ 施設の存在や意義を広く周知するため、施設一体となった広報活動(情報発信)を実施する。  
〔 ポスター・リーフレットの共同製作、  
ホームページ・メールマガジンの共同運営 など 〕

#### 【集客活動】

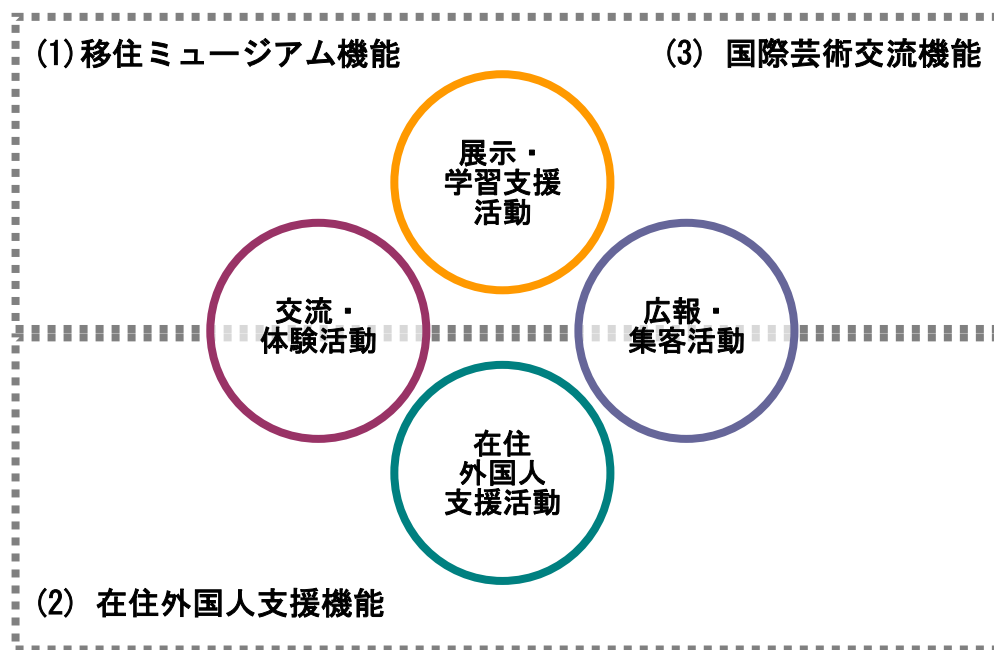
- ・ 共用スペース(コモンスペースやホール)を利用し、(1)～(3)の諸機能と連携

した共同イベント等の企画・開催・情報発信、集客ツールの開発を行い、新たな利用者層の獲得、リピーター育成をはかる。

（フェスタ・ジュニーナ、移民祭などの日系ブラジル社会固有の行事や、クリスマス会、イースター、カーニバルなどの年中行事を、施設全体で規模を拡大して実施、  
音楽とアートが連携した文化交流行事の開催、  
コミュニティFM放送局による番組収録や公開生放送、  
観光案内図や観光マップ、イベント情報提供による観光客へのPR など）

- ・ 中南米を中心とした移住先国の文化に触れられるよう、食体験や音楽体験の機会を提供する。  
（カフェの設置、南米音楽のコンサート など）
- ・ カフェと一体的に使えるサロン空間（コモンスペース）を活用し、気軽に立ち寄り休憩・交流ができる憩いの空間を創出する。イベント情報の閲覧などでもできるレストスペースを備えたものとする。
- ・ 来場者の利便性向上と集客に必要な駐車場を整備する。

#### ■各機能が有する活動内容



## V 施設計画

### 1. 施設再整備の考え方

当施設は1928(昭和3)年に国立神戸移民収容所として開設され、1971(昭和46)年に神戸移住センターとして閉鎖されるまで、その大半を移住関係の施設として機能してきた。また、戦中の一時期に大東重要員錬成所、そして神戸移住センター閉鎖後の看護学校、神戸海洋気象台、CAP(NPO 法人芸術と計画会議)による活動の舞台ともなっている。当施設は神戸の歩みを見つめてきた、歴史の証言者といえる存在である。

施設整備においては、この建物自体が保有する歴史＝「建物の記憶」を後世に継承するとともに、「建物の記憶」を足がかりに、神戸の未来像を描ける施設として機能し、多文化共生を実現する活動空間を創出することをめざす。

また、当施設が海外移住のために建設された施設としては、国内で唯一現存する建物であることから、当時の趣きを出来る限り継承していくことを基本に、意匠設計を行う。

#### ■施設再整備コンセプト

#### 建物の記憶

### 2. 建物の現況と整備の方向性

本館については、昭和3年築ということ、及び震災を経験してきた建物であることを考慮し、整備に先立って構造調査を実施した。その耐震診断の結果、建物の長辺方向については1階～3階及び5階が、短辺方向については1階が基準を満たさなかったため、耐震補強工事を行う。また、現行の建築基準法からみて現在の建物は既存不適格の状態にある。そのため、現行法に適合するよう施設改修を行う。

別館1は老朽化が進み、保存状態は良好とは言えない。再整備後は新たに来館者用の駐車場が必要となるので、別館1を解体・撤去し、跡地に駐車場を整備する。

別館2についても耐震診断の結果、建物の強度に懸念が示された。そのため、耐震補強工事と老朽化改修を行ったうえで活用する。

### 3. 施設整備にあたっての留意点

施設再整備コンセプト「建物の記憶」をふまえ、5階旧講堂をコモンスペースとする。5階旧講堂は、新天地を思い描きながら講義を受け、あるいはふるさとを振り返りながら神戸の街や港を見つめた空間であり、建物の過去と未来、神戸の過去と未来が交錯する象徴的な空間である。この5階をコモンスペースとすることにより、建物が見てきた過去だけでなく、これからも見続けるであろう未来をも見通す意味を空間に込め、多文化共生につながる活動空間を創出する。

## ■各階機能構成表

階	機 能	室 名 称	内 容
1	移住ミュージアム	展示室	・海外移住の歴史や南米日系人のルーツの紹介とともに、旧神戸移住センター自体の歴史を通じて神戸が歩んできた歴史の一端も紹介。
	共用	コモンスペース	・カフェと一体的にも使えるサロン空間を設置し、憩いの空間を創出する。イベント情報の閲覧などでもできるレストスペースも備える。
2	移住ミュージアム	展示室	・海外移住の歴史や南米日系人のルーツの紹介とともに、旧神戸移住センター自体の歴史を通じて神戸が歩んできた歴史の一端も紹介。 ・移住体験者の「語り部活動」を行うほか、南米日系人等の交流プログラムを開催。(多目的スペースでも展開)
	在住外国人支援	交流空間	・在住外国人同士または在住外国人と市民が交流できる場。
		情報スペース	・多文化共生や異文化理解に向けた取り組みを図書等で紹介。
	共用	多目的スペース	・各機能と連携した企画展示や講座・講演会を開催。 ・団体入場時のガイダンス・映像視聴などにも使用。
3	在住外国人支援	活動スペース	・南米日系人を中心とした在住外国人支援団体の活動スペース。 ・在住外国人向けの各種相談や能力開発、語学習得支援を図る。
		事務所スペース	・在住外国人支援団体の事務スペース。
	国際芸術交流	アトリエ	・アトリエ公開活動や子ども向け学習プログラムを実施。 ・海外アーティストとのコラボレーションなど、海外との国際芸術交流を推進する。 ・芸術体験の場を提供するなど、市民との芸術を軸にした交流活動の場。
4	国際芸術交流	アトリエ	同上
5	共用	コモンスペース	・各機能と連携したイベント等を開催し、市民との交流を図ると共に、新たな利用者層の獲得、リピーターの育成を図る。

## Ⅵ 展示計画

### 1. 基本的な考え方

#### (1) 建物を生かした展示

- ・現存する国内唯一の移住関連施設である建物を生かした展示とする。
- ・建物が記憶してきた歴史についても紹介できる展示を設ける。

#### (2) 体感・体験を重視した展示

- ・見る、読むだけではなく体感・体験型の展示を主体とし、理解が深まり長く記憶に留まるよう配慮する。
- ・利用者によるメッセージの蓄積と公開など、参加できる展示を用意する。

#### (3) いつ来ても新鮮味のある展示

- ・更新性・可動性の高い展示手法を取り入れ、情報の更新や追加がしやすいものとする。

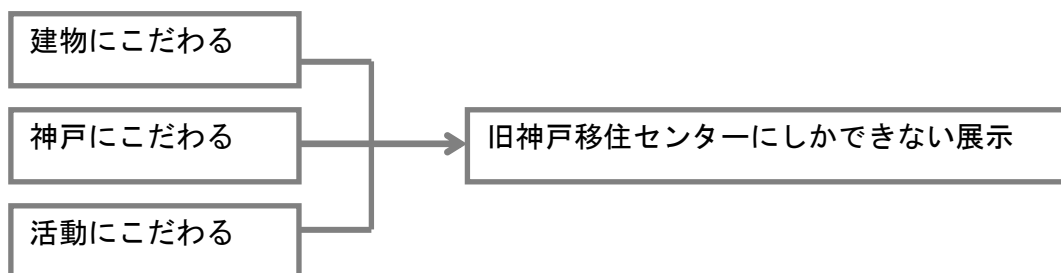
### 2. 展示の基本テーマ

#### ■展示の基本テーマ

#### 神戸と移住

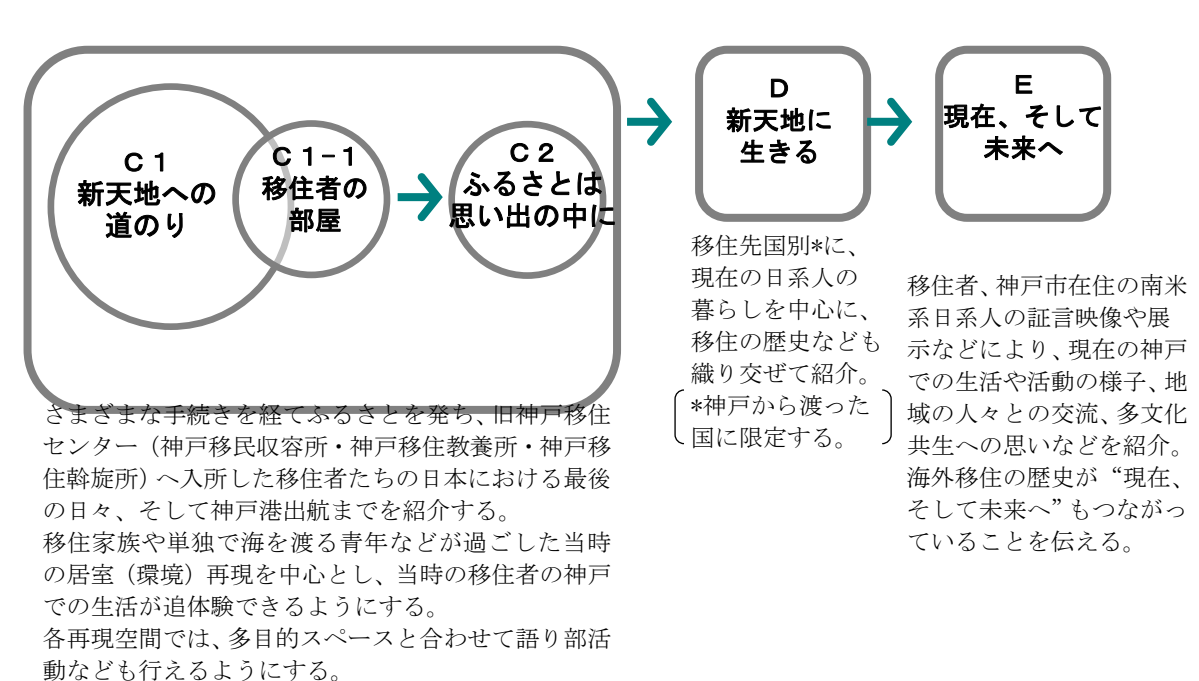
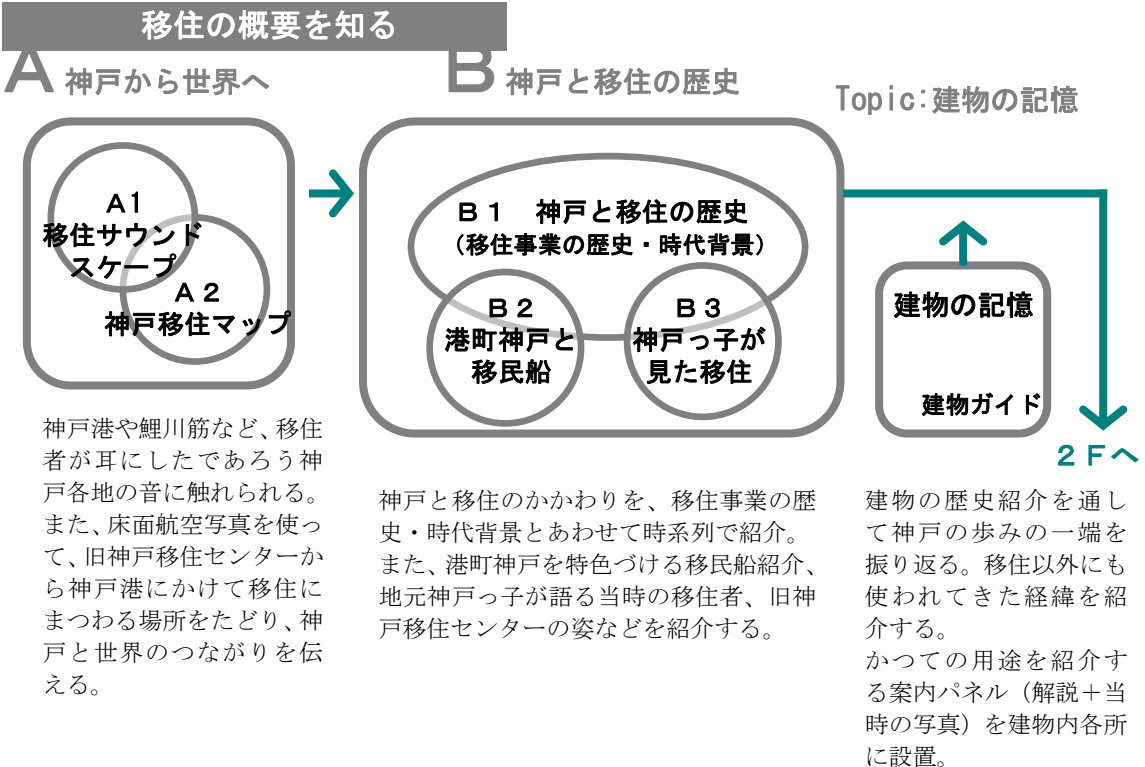
#### —希望と未知への船出—

- 施設再整備のコンセプトとともに、建物が有する歴史＝「建物の記憶」＝旧神戸移住センターを中心とした歴史をふまえ、移住先国への出発を前にした人々の建物での生活の様子を中心に展示を展開する。
- 海外移住の拠点となった神戸を紹介する
- 海外移住の歴史を通じて多文化共生の意義を伝える



### 3. 展示の構成

#### (1) 展示の構成



## 多目的スペース

### 多目的スペース

- ・企画展示
- ・講座・講演会
- ・映像視聴
- ・団体入場時の  
ガイダンス など

多目的スペースを設け、企画展示や講座・講演会の開催、団体入場時のガイダンス・映像視聴などに使用できるようにする。

移住ミュージアム単独ではなく、他機能との共有として設置することも検討する。

企画展示例：

JICA 横浜 海外移住資料館での例

- ・海外移住の歴史をかるたで学ぶ!!
- ・ドラマ「ハルとナツ 届かなかった手紙」展
- ・「マツリ展 ～外国文化になった日本の祭り」など

(2) 展示構成表（案）

コーナー名		項目名	主な展示アイテム
A	神戸から世界へ 移住の街神戸と世界とのつながりをイメージさせる導入空間。	1 移住サウンド スケープ 神戸港や鯉川筋など、出発を前に移住者が耳にしたであろう神戸各地の音に触れられるスペース。	○神戸各地の音(既存音源使用) ・神戸港(汽笛の音、万歳三唱の声など) ・移住坂・鯉川筋 ・旧神戸移住センターでの生活の中で耳にしたであろう音(講義音声、虫の鳴き声など)など
		2 神戸移住マップ 旧神戸移住センターから神戸港にかけての移住にまつわる場所を紹介する。	○移住マップ (床面航空写真) ・旧神戸移住センター～神戸港までを中心に表現 ・移住に関連する地点表示＋当時の景観写真 旧神戸移住センター 鯉川筋 (移住者がたどった経路表示) 移住宿跡地 移住者向け商店跡地 神戸協和寮跡 神戸港(栈橋) など ●情報ボード(市民がつくる展示のための情報収集ボードを設置)
B	神戸と移住の歴史 神戸と移住のかかわりを時系列で紹介。	1 神戸と移住の歴史 日本国の移住事業の歴史、移住先国における移住事情など、時代背景とあわせて、神戸と移住の歴史を紹介する。	○神戸移住年表(グラフィック) ・神戸と移住の関わり ・日本国の移住事業・移住政策の推移 ・移住先国の事情 ○実物資料 (かつての生活を表すもの) ・農具(既存) 種まき機 カマ 斧 ストレーナー ・ランプ



コーナー名		項目名		主な展示アイテム
B	神戸と移住の歴史	2	<b>港町神戸と移民船</b> 港町神戸を特色づける移民船紹介展示。	○かつての神戸港 ○移民船と航路 ・航路紹介(マップ) ・代表的な移民船紹介 (モデルシップ＋解説＋実物資料(絵葉書など)＋絵画や写真 など) 笠戸丸(第一回ブラジル移民船) ぶゑのすあいれす丸 (戦前最後の移民船) さんとす丸 (戦後最初のブラジル移民第1船) ほか ●情報ボード(市民がつくる展示のための情報収集ボードを設置)
		3	<b>神戸っ子が見た移住</b> 地元神戸っ子が語る当時の移住者、旧神戸移住センターの姿などを紹介する。	○神戸っ子が語る移住と神戸 ・「移民さん」を知る一般市民 ・神戸の移住に足跡を残した人・その人を知る人 (例)久徳正彦(岩国屋経営者)を知る人 など ・その他、当時の旧神戸移住センター(それ以前)を語れる人 ●情報ボード(市民がつくる展示のための情報収集ボードを設置)
	<b>Topic 建物の記憶</b> 建物の歴史を紹介し、建物の歴史を通して神戸の歩みの一端を振り返る。 移住以外にも使われてきた経緯を紹介する。			○建物の記憶(年表と解説) ・年表 ・用途ごとの時代の解説 ・当時の写真 ・各用途を偲ばせる実物資料(要所在確認) 神戸移住センター業務日誌 など ○建物ガイド(パネル) ・当時の諸室の用途を解説する案内パネル (解説＋当時の写真)を、建物内各所に設置。 (年代を統一の是非については要検討) ●情報ボード(市民がつくる展示のための情報収集ボードを設置)

コーナー名	項目名	主な展示アイテム
<b>C 新天地への道のり</b> 移住者たちの旧神戸移住センターでの生活を中心に神戸での日々を紹介する。居室再現などで当時の移住者の生活が追体験できるようにする。各再現空間は、多目的スペースと合わせて語り部活動なども行えるようにする。	<b>1 新天地への道のり</b> 移住の申請、財産処分など、さまざまな思いと手続きを経てふるさとを離れた移住者たち。移住者たちの旧神戸移住センターでの生活（ふるさと日本における最後の日々）を紹介する。	<b>○教室（講義風景）再現</b> 以下の項目を教室の机を展示台として表現する <b>○神戸までの経緯</b> （グラフィック＋実物資料） ・申し込み手続き ・財産整理 <b>○旧神戸移住センターでの生活</b> ＊神戸又新日報 S3 特集などを参考にする ・スケジュール表 ・貼り紙「講義時間中は静粛に」 ・渡航手続き ・現地事情・語学等の補習 授業の冊子とノート ・慰安会 <b>○映画上映</b> ・移住者が見た「移住地案内」など <b>●情報ボード</b> （市民がつくる展示のための情報収集ボードを設置）
	<b>-1 移住者の部屋</b> 一家で移住する家族や、農業を志すコチア青年のように単独で海を渡った移住者たちが、出航までの日々を過ごした居室を再現し、追体験できるようにする。	<b>○居室再現</b> <b>&lt;移住家族&gt;</b> ・移住家族の持ち物（触れる展示） 書類・パスポート ポルトガル語の教科書 その他身のまわりの品々 <b>○写真帖</b> （移住家族に関するもの） <b>○移住家族の思い</b> ・『拓務時報』の移住者通信など、各種通信や手記より
		<b>&lt;コチア青年&gt;</b> ・持ち物（触れる展示） 書類・パスポート 農業書 ポルトガル語の本 その他身のまわりの品々 <b>○写真帖</b> （コチア青年に関するもの） <b>○コチア青年・コチア農業協同組合 解説</b> <b>○コチア青年の思い</b> ・303号室の落書きへと誘導（解説） ・『拓務時報』の移住者通信など、各種通信や手記より

コーナー名		項目名		主な展示アイテム
C	新天地への道のり	2	<p><b>ふるさとは思い出の中に</b> 旧神戸移住センターから神戸港までの移動、神戸港における出航のシーンを紹介する。</p>	<p>○荷造り検査(グラフィック+模造品) 『拓務時報』の移住者通信など、各種通信や手記より</p> <p>○旧神戸移住センターから神戸港へ(グラフィック・映像) 『拓務時報』の移住者通信など、各種通信や手記より</p> <p>○出航 ・移民船(大型グラフィック) ・出航シーン(映像+音) ・出航にまつわるエピソード、思い出 『拓務時報』の移住者通信など、各種通信や手記より</p> <p>●情報ボード(市民がつくる展示のための情報収集ボードを設置)</p>
D	新天地に生きる	1	<p><b>新天地に生きる</b> 移住先国別に、現在の日系人の暮らしを中心に、移住の歴史なども織り交ぜて紹介。移住先国に根を下ろして生きる日系人の活躍を紹介する。</p> <p>*神戸から渡った国に限定する。 *移住先国別ではなく、居室再現で取り上げた「移住家族」「青年」別に、移住先国での暮らしの過程を追っていくことも考えられる。</p>	<p>○移住先国の暮らし紹介 ブラジル・パラグアイ・ボリビア・アルゼンチンほか各地の生活紹介 ・各国にわたった移住者の生活(グラフィック) ・現在の生活(1世・2世以降) ・移住先国に伝わった「日本」 〔食生活 文化〕</p> <p>○世界で活躍する日系人 ・企業家、芸術家 など</p>
E	神戸へのメッセージー現在、そして未来へー	1	<p><b>神戸へのメッセージー現在、そして未来へー</b> 移住者、神戸市在住の南米日系人の証言映像や展示などにより、現在の神戸での生活や活動の様子、地域の人々との交流、多文化共生への思いなどを紹介。 海外移住の歴史が“現在、そして未来へ”もつながっていることを伝える。</p>	<p>○証言映像 ○在住日系人の人口グラフ ※更新を前提。神戸以外にも兵庫、関西エリア、その他集住地域を視野に入れる。世代・性別も示す。</p> <p>○身近な南米 ・靴や食品(弁当)など、自分が普段の生活の中で利用しているものが、日系人の手によって作られているということに気づく展示(立体グラフィック・実物)</p> <p>○在住日系人の活動 ・ビジネス ・文化・芸術・スポーツ ・子どもたちの毎日(学校・誕生日会・その他)</p> <p>●メッセージコーナー ・利用者・来館者が書き、掲示できるメッセージボード</p>

## VII 管理運営計画

### 1. 基本的な考え方

#### (1) 運営の効率性と継続性

施設全体が円滑かつ効率的に運営されるよう管理運営のあり方を工夫するとともに、施設の有する諸機能の安定的・継続的展開を図る。

#### (2) 利用者の視点

多くの人々に利用され、地域の活性化に資する施設としての運営を行うため、利用者の立場に立った管理運営を行う。

#### (3) 複合機能施設

施設の有する複合的な機能が最大限に発揮されるよう、各機能の特性を踏まえた施設の管理方法と管理運営形態に配慮する。

### 2. 管理運営主体

当施設は公の施設として位置づけ、管理運営については指定管理者制度を導入する。運営主体の選定にあたっては、下記の事項について留意する必要がある。

#### (1) 専門性

・当施設が担う以下の3つの機能は、それぞれ独自の活動分野を有し、事業展開に当たっては高い専門性が必要である。

- 移住ミュージアム機能
- 在住外国人支援機能
- 国際芸術交流機能

#### (2) 連携・調整機能

- ・機能毎の事業展開に加えて、それらの事業が相乗効果を発揮し、施設全体としての魅力を高めるため、特に広報・集客活動や交流体験活動における連携・調整機能が必要である。
- ・また、施設運営に係る情報全般の共有化や、事業の一体的・効果的な展開のため関係者間の調整を行うコーディネーター的機能が必要である。

### 3. 管理運営業務

管理運営業務の具体的検討は、事業主体の検討と合わせて詳細検討を行うものとするが、おおむね以下のような内容が想定される。

○それぞれの機能に特化される業務

#### (1) 移住ミュージアム機能

- ・展示業務: 常設展示の保守・更新、企画展示の企画立案・運営など
- ・資料管理業務: 資料の登録管理・保存など
- ・教育普及業務: 教育プログラムの企画立案・運営、教育ツール開発
- ・交流体験業務: 交流・体験イベント・プログラムの企画立案・運営など

#### (2) 在住外国人支援機能

- ・相談受付業務: 相談窓口の運営など
- ・教育普及業務: 日本語教室・日本文化教室・外国語教室の企画立案・運営など

ど

- ・交流体験業務:交流・体験イベント・プログラムの企画立案・運営など

(3)国際芸術交流機能

- ・展示業務:常設展示の保守・更新、企画展示の企画立案・運営、アトリエ公開活動など
- ・学習支援業務:アートスクールなどの学習支援プログラムの企画立案・運営など
- ・交流体験業務:交流・体験イベント・プログラムの企画立案・運営など

○連携・調整にかかわる業務

- ・連携・調整業務:(1)～(3)をまとめ、連携・調整をはかるコーディネート業務

○業務管理にかかわる業務

- ・広報・集客業務:広報宣伝活動の展開、ホームページ運営

※なお、「交流体験業務」及び「広報・集客業務」は、各機能において個別に実施されるほか、より効果を高めるため、施設全体として一体的に実施することが望ましい。

#### 4. 開館形態

開館形態については以下の考え方によるが、開館前に運営体制等と併せて詳細を決定していくこととする。

(1)休館日

- ・できるだけ多くの市民にとって利用しやすい施設となるためには、休館日は少ないことが望ましいが、一方で安定的かつ質の高い活動の維持、効率的運営、施設の維持管理の面から、定期的に休館日を設定することも求められる。
- ・休館日の設定については、利用者層の想定、活動内容、周辺環境などを勘案して、各事業主体と協議の上決定する。

周辺観光施設の開館形態

施設全体としての共通休館日、または機能ごとの個別休館日などの検討

(2)開館時間

- ・多様化するライフスタイルに対応するには長時間の開館が望ましいが、効率的な運営とのバランスが必要となる。が、3つの機能ごとに、平日・休日の利用者層が異なることも想定される。
- ・最寄り駅からのアクセスはバス、または徒歩となるが、バスの運行時間によって夜間の施設利用者層は限定される。
- ・開館時間の設定については、利用者層の想定、活動内容、周辺環境を勘案して、各事業主体と協議の上決定する。

(3)入館料等

- ・海外移住に関する啓発・教育と、在住外国人支援及び地域交流事業の拠点となることを目的として整備される施設であり、できるだけ多くの人々の利用を促進し

ていくため、入館料は無料とする。

- なお、施設の有効活用を図るために、施設内の貸事務所、貸会議室及びコモンスペースの使用に際しては、使用料を徴収する。また、来館者用駐車場は有料とする。
- カフェの設置については、行政財産の目的外使用許可が必要であり、運営者から許可使用料を徴収する。

## 施設の現況

### 1. 旧神戸移住センター概要

所在地	神戸市中央区山本通 3 丁目 19 番8号	
面積等	敷地面積 3,992.21 m <sup>2</sup> 延床面積 5,094 m <sup>2</sup> 本館 3,572 m <sup>2</sup> 地上 4 階建て 一部 5 階建て 別館 1 1,210 m <sup>2</sup> 地下 1 階 地上 3 階建て 別館 2 312 m <sup>2</sup> 1階平屋	
構 造	鉄筋コンクリート	
用途地域等	第 1 種中高層住居専用地域 準防火地域	
経 緯	1928(昭 3 年) 国立神戸移民収容所開設 1932(昭 7 年) 神戸移住教養所と改名 1941(昭 16 年) 神戸移住教養所、戦時閉鎖となる 1942(昭 17 年) 終戦まで大東重要員錬成所となる 1952(昭 27 年) 神戸移住斡旋所として再開 1964(昭 39 年) 神戸移住センターと改名 1971(昭 46 年) 神戸移住センター閉鎖 1972(昭 47 年) 市立高等看護学院開校、一部を神戸市医師会准看護婦学校として使用  1983(昭 58 年) 市立高等看護学院閉鎖 1994(平 06 年) 神戸市医師会准看護婦学校が西区に移転 1995(平 07 年) 04 月 神戸海洋気象台が一部使用(～99 年 9 月まで) 1999(平 11 年) 11 月 CAP(NPO法人芸術と計画会議)が「CAP HOUSE」として暫定利用  2002(平 14 年) 05 月 本館常時開館(公募によりCAPに管理運営を委託) 06 月 「移住資料室」開設	

### 2. 再整備にかかる経緯

- (1)1999(平 11)年 10 月、ブラジルの日系人団体から神戸市長(当時)へ、旧神戸移住センターの国における保存活用を実現するため、神戸市の側面的支援を求める陳情書が提出され、センターの保存活用に向けた運動が始まる。
- (2)2000(平 12)年 1 月、移民船乗船記念碑建立のため「神戸港移民船乗船記念碑建立実行委員会」が設立。  
2001(平 13)年 4 月、市民からの浄財により、神戸港メリケンパークに記念碑建立。その他顕彰事業として同年秋にJR元町駅前に「海外移住者が歩いた道」モニュメント、2002(平 14)年 3 月にブラジル風交番の設置、JR 元町駅前及び旧神戸移住センター前にイペの木を植樹。
- (3)(財)日伯協会を中心に「海外日系人会館設立準備委員会(後に「国立海外日系人会館推進協議会」に名称変更)により旧神戸移住センターを国立海外日系人会館として整備するよう、国への働きかけが行われる。
- (4)神戸市としてもこの運動を支援。  
2002(平 14)年度より本館を常設開館、「移住資料室」を設置し、内部を一般公開。

兵庫県、日伯協会など関連団体とともに外務省領事局、国際協力機構(JICA)などへの要望を実施。

- (5)2007(平 19)年、国立施設としての整備に代えて、兵庫県とも連携しながら、ブラジル移住 100 周年関連事業として旧神戸移住センターを再整備することを決定。あわせて、「国立海外日系人会館推進協議会」を「海外日系人会館(仮称)協力委員会」に名称変更。

### 3. 現在の活用状況

年間利用者数 約 8, 000 人

#### (1)神戸移住資料室(本館 1 階東側)

- ・2002(平 14)年 06 月移住資料室を設置
- ・海外移住に関する写真・資料を展示
- ・海外移住写真展、日系ブラジル移住者生活ビデオ上映会などを開催

#### (2)日系ブラジル人支援(本館 4 階)

- ・関西ブラジル人コミュニティ(CBK)が入居
- ・在住ブラジル人児童への母語教室、ブラジル人向けの日本語教室、パソコン教室開催など、在住ブラジル人の交流の場として活用
- ・イベントの開催:移民祭(4 月下旬)  
フェスタ・ジュニーナ(6 月下旬)  
W杯ブラジル優勝記念サンバパレード

#### (3)芸術交流活動

- ・NPO法人芸術と計画会議(CAP)が芸術交流活動を実施
- ・公開アトリエ、美術展開催、地域との芸術交流など  
アート林間学校(夏休みの親子向け講座 37 講座開催)  
イブニングアートパーティ(2 ヶ月に 1 回)  
アクト・コウベ(海外との芸術交流)